

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 4 月 10 日

事務事業名		桜川筑西IC周辺都市整備推進事業				事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け				新規/継続		事務事業No. 050402000415	
総合計画の施策名		0504 企業誘致及び新産業の育成				単独/補助		所属課 000101	
政策名		05 魅力と活力のある産業社会づくり				主要事業		総合戦略室	
施策名		04 企業誘致及び新産業の育成				市長マニフェスト		対象外	
基本事業名		02 立地環境の整備				未来PJ事業		対象	
						合併建設計画事業		グループ 地域開発G	
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目		一般会計				単年度繰返し (年度~)			
01 02 01 16 01 00		企業誘致推進事業				期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
法令根拠		都市計画法等							

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像) 平成20年4月に北関東自動車道桜川筑西ICが開通し、これを契機とした地域振興が望まれた。桜川市総合計画においても、インターチェンジ周辺整備検討事業として位置付けられていた。 平成21年4月には、桜川筑西IC周辺整備構想を策定し、さらに事業を推進するための桜川筑西IC周辺地区整備計画を平成25年6月に策定している。 現在は、長方準工業地域と大和駅北側の開発整備計画を進めるため、測量調査に着手し地権者との用地交渉を行い、さらにはこの開エリア内に市立病院建設計画も取り入れた計画で事業を進めている。	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 【担当者が行う業務の手順】 ①社会経済動向を勘案し、整備方針等を立案 ⇒ 桜川未来プロジェクトを通して、整備方針を検討 ⇒ 再検討などを通し、精度を高め企画する ②計画に基づき、市が実施すべき事業を実施

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
・桜川筑西IC周辺地区(大和駅北地区)整備計画の検討 ・事業に関係する地権者対応 ・長方準工業地区内への企業誘致の推進	未来プロジェクト開催回数	回	3.00	0.00	3.00	3.00	0.00
	企業ヒアリング	社	6.00	5.00	3.00	3.00	0.00
	地権者説明会等の開催回数	回	8.00	6.00	2.00	2.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
IC周辺地区の土地所有者	IC周辺地区の土地所有者数	人	70.00	70.00	70.00	70.00	40.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
桜川筑西IC周辺地区の整備方針を明確にし、土地利用の誘導並びに企業誘致を推進する。	IC周辺地区への企業等誘致数	社	0.00	0.00	1.00	1.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入	事業費	財源内訳	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	30年度(目標)	31年度(目標)	期間限定総投入量
入	業	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0
		一般財源	50	38,630	344,964	70,000	50,000	0
	事業費計(A)	50	38,630	344,964	70,000	50,000	0	
量	人件費	正規職員従事人数	4.00人	4.00人	4.00人	4.00人	4.00人	
		述べ業務時間	2,500.00	2,801.00	3,500.00	3,000.00	3,000.00	
		人件費計(B)	7,253	8,126	10,154	8,703	8,874	
	トータルコスト(A)+(B)	7,303	46,756	355,118	78,703	58,874		

事業費の内訳	28年度事業費 実績(千円)			29年度事業費 予算(千円)		
	品目	金額		品目	金額	
	13 委託料	6,869		13 委託料	41,751	
	15 工事請負費	27,600		15 工事請負費	255,009	
	22 補償補填及び賠償金	4,161		17 公有財産購入費	28,204	
				22 補償補填及び賠償金	20,000	
	合計	38,630		合計	344,964	

(4) 当該年度の実施内容

実施内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業	・企業への営業活動 ・地権者対応、用地買収、登記 ・道路、水路、調整池の整備	・企業への営業活動 ・地権者対応、登記 ・道路、水路、調整池の整備	・企業への営業活動 ・地権者対応、登記 ・道路、水路、調整池の整備

事務事業名	桜川筑西IC周辺都市整備推進事業	事務事業No.	50402000415	所属課	総合戦略室
-------	------------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
平成20年4月の北関東自動車道桜川筑西ICの開通を契機として、桜川筑西ICを有効活用した地域振興の指針を示す必要があり、これらをまとめたものとして、桜川筑西IC周辺都市整備構想を平成21年3月に策定した。それをさらに具体化するため、平成25年6月には、桜川筑西IC周辺地区整備計画を策定し、地権者対応やインフラ整備など、複合的に事業を進めている。平成25年9月には、長方準工業地域にホムカ-コメリも出店(2ha)したため、今後の企業進出が期待される。	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
議会: 桜川筑西IC周辺について、企業誘致の早期実現を望んでいる。 都市計画審議会: 桜川筑西IC周辺都市整備について、早期実現を要望している。 地元住民: 企業等誘致の早期実現が望まれている。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	IC周辺地区整備において、リスクを減らすためには、第一に地権者の協力が不可欠である。しかし地権者がすべて納得するような手法はほぼ存在しない。また、企業の進出動向は、社会経済要因に大きく左右され、基盤整備を実施したからといって、必ず実現するというものでもない。より精度の高い区画整理事業を実施しても、確実に企業が進出するとは言えない。これらの不確定要因を踏まえた上で、リスクを軽減する方法としては、IC周辺整備の取り組みを基盤整備に限定することなく、土地所有権の整理等も含めて広く検討することや段階的事業実施のプログラムを確定させること、土地の暫定利用を実施することなどが想定される。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名 企業誘致推進事業
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか? やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	桜川筑西IC周辺地区整備計画については、地元地権者や桜川市議会との協議を経て、桜川未来プロジェクト(企画課・建設課・農林課・都市整備課)を中心とした体制で策定作業を進めた。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 → <input type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																										
IC周辺地区整備において、リスクを減らすためには、第一に地権者の協力が不可欠である。しかし地権者がすべて納得するような手法はほぼ存在しない。また、企業の進出動向は、社会経済要因に大きく左右され、基盤整備を実施したからといって、必ず実現するというものでもない。より精度の高い区画整理事業を実施しても、確実に企業が進出するとは言えない。これらの不確定要因を踏まえた上で、リスクを軽減する方法としては、IC周辺整備の取り組みを基盤整備に限定することなく、土地所有権の整理等も含めて広く検討することや段階的事業実施のプログラムを確定させること、土地の暫定利用を実施することなどが想定される。																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上			○																						
	維持			×																						
	低下			×																						
(6) 事務事業優先度評価結果																										
成果優先度評価結果																										
コスト削減優先度評価結果																										

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>